

花巻ファーマー

素材のおいしさを届けたい こだわりの鶏卵で作った白プリン



宮川 一子 さん
(東和町前田 68歳)

東和町小山田地区に広がるのどかな田園風景の一角に、宮川一子さんの加工場があります。

6・5畝の水田で水稻を栽培しているほか、3頭の繁殖牛を育てる宮川さん。その傍ら、地域の食材を使用した加工品の製造にも力を注いでいます。中でも鶏卵を使った「白プリン」は宮川さん自慢の一品です。小山田地区のニワトリは、野菜や小麦のくずを与えられ、伸び伸びと運動できる鶏舎で飼育。そのニワトリが生んだ卵は、卵黄が薄黄色でなめらかな味わいが特徴です。「この卵を見た時は驚きました。これでプリンを作ってみたいという思いが日に日に強くなりました」と宮川さんは話します。



宮川さんの白プリンは「昔ながらの懐かしい味」と評判です

広げよう
活動の輪

市民活動団体紹介

若者の活躍と交流の場を提供
the Youth Grow (ユースグロウ)

the Youth Growは、県内の学生や若手社会人の交流と自立を目的に活動する任意団体です。

「岩手山登山」をはじめとしたイベントや、学生交流会、自分のやりたいことを企画するワークショップ、ボランティアなど、その活動はさまざま。広報や総務、学生代表などの役割を決め、協力し合いながら企画・運営やコミュニケーションのスキルアップを図っています。

学生と若手社会人が活躍する場を提供する同団体。学生会員からは「広報やイベントの企画など、大学では教わらないことが学べる」「交流の輪が広がるいい活動」と好評を得ています。



▲昨年12月に開催された「クリスマスパーティ」の参加者

ことをできるよう、支援を続けていきたい」と話す代表の平嶋孔輝さん。「企画・運営を続けられる学生を育てていければ」と意欲を見せています。

【問い合わせ】
the Youth Grow
代表 平嶋 孔輝 さん
(☎the.youth.grow@gmail.com)
●同団体では、会員やイベントなどの参加者を募集しています。詳しくはお問い合わせください

市民生活コーナー

インターネット通販の代引きトラブルに注意！

■どんな相談があるの？

○インターネット通販会社から、身に覚えのない代引き商品が連続で届いた
○心当たりのない商品が代引きで届いた。何者かが私の名前を使って商品注文したようだ
○家族宛てに代引き商品が届いた。中身を確認したところ、身に覚えのない物だった

■注意することは？

○心当たりのない商品が届いた場合は、家族や友人を含め注文した覚えがないか確認しましょう。不明な場合は商品の受け取り・代金の支払いをしないでください
○家族宛ての代引き商品など、受け取るべきか判断できないときは、配送業者に事情を話し、いったん持ち

た。配送業者に事情を説明したが、返金対応してもらえなかった

■困ったときは？

○新館市民生活総合相談センター(☎41-3550)へ

帰ってもらいましょう。商品を受け取ってしまった場合は、発送元に身に覚えのない商品であることを伝え、返品・返金の依頼をしましょう

○普段からの備えとして、誰が注文したか分からない商品は受け取らないなど、家族間でルールを決めておきましょう

COLUMN:Health

健康コラム

たばこの煙のエチケット

～あなたは大切な人に会う前に守れていますか？～

●受動喫煙の一つ「三次喫煙」

喫煙後、30～45分は喫煙者の息から有害物質が出続けているといわれています。このような、たばこを吸った人が吐き出す息のほか、衣服やカーテン、カーペットなどに付着したたばこの有害物質を吸い込むことを「三次喫煙」(サードハンド・スモーク)といいます。喫煙者は「別の場所ではたばこを吸っているから受動喫煙にならない」と思っている、喫煙後すぐに会った人を知らず知らずのうちに三次喫煙に巻き込んでいます。



さらに、普段たばこを吸わない人は、たばこの煙に対する感受性が高く、少しの量でも大きな健康被害を受けるともいわれています。

●加熱式たばこは安全？

近年、利用が増えている加熱式たばこは、健康被害が明らかになっていません。しかし、たばこに含まれる約5,300種類の化学物質のうち、カットされたと分かっているのはたったの9種類で、受動喫煙は防止できません。

まずは、大切な人に会う1時間前から禁煙を始めてみてはいかがでしょうか。「意外と我慢できる！」そんな気持ちに出会えたら、さらに前に進めるかもしれませんね。

【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)

いいところ発見!
地域おこし協力隊

「漆工房 地神」を訪問しました

一伝統工芸の活性化によるシティスロモーション
担当 今野 陽介-

3月18日、四日町にある「漆工房 地神」を訪問しました。地神では、職人の高橋和典さんが漆器の製作と修理・復元を行っています。

漆器製作には、基となる木地を作る「木地師」や、その木地に漆を塗る「塗師」など、多くの職人が関わっていますが、高橋さんは失敗がゆるされない最終工程の「加飾」を担当。漆器の表面に漆で絵を描き、金箔を貼って模様を付けていきます。

高橋さんは筆にもこだわりがあり、新品の筆は荷札の針金とペンチで筆先を整えたり、持ち手に油が垂れてこ

ないよう新聞紙とタコ糸を筆に巻き付けたりするなど、長年の製作でたどり着いた自分に合う使い方をしています。

加飾の体験もさせていただきましたが、高橋さんの「迷いがあったっては描けない」という言葉どおり、迷って腕が止まってしまうときに線が描けません。高橋さんの筆さばきはとても美しく、キクの模様なども迷いもなく数十秒で描いてしまいます。漆器の修復も一つ一つ丁寧に行う高橋さん。その思いにも感銘を受けた貴重な体験になりました。



▲漆器にキクの模様を素早く描く高橋さん